

小学校 6 年生から
高校 1 年生の女の子と
保護者のみなさまへ

わたしの体を守ること
とても大切なことだよね
みらい 未来のわたしと、大切なひとのために

し き ゆ う け い よ ぼ う
子宮頸がん予防を
は じ
始めませんか？

釜石市 健康推進課
☎0193-22-0179



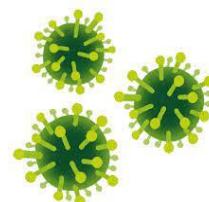
しきゅうけい

子宮頸がんはヒトパピローマウイルスが原因です

げんいん

がんは、「大人がなるもの」や「タバコを吸うとなる」
そう思っていませんか？

じつは、ウイルスに感染して起こる“がん”があります。
このウイルスは、女性の多くが、「一生に一度」は感染
すると言われています。感染してもほとんどの人はウイ
ルスが自然に消えますが、一部の人は「がん」になって
しまうことがあります。



HPV

(ヒトパピローマウイルス)
子宮頸がんの原因のほとんどが HPV への感染で
す。一度でも性交渉の経験
があればだれでも感染す
るおそれがあると言われて
います。

何人くらいが子宮頸がんになるの？

日本では、毎年約1万1千人の女性が子宮頸がんになり、毎年約2,900人の女性が亡くなっています。

子宮頸がんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失う（妊娠できなくなってしまう）人も、1年間に約1,000人います。



子宮頸がんで苦しまないための2つの方法

Point① 今からできること

→ HPVワクチンの接種

小学校6年生から高校1年生の女の子は、HPVへの感染を防ぐための予防接種の対象です。将来の子宮頸がんの原因を防ぎます。

世界120か国以上で予防接種が行われ、カナダ、イギリス、オーストラリアなどでは、8割以上の女の子が予防接種をうけています。



Point② 20歳になったらできること

→ 子宮頸がん検診

20歳になると、子宮頸がん検診をうけることができます。

HPVワクチンの予防接種をうけていても、がん検診は必要です。検診でがんを早く見つけて治療するため、定期的にがん検診をうけることが大切です。（2年に1回）





HPV には、子宮頸がんを起こしやすい種類(型)があります。このウイルスへの感染を防ぐために、HPV ワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)があります。

また、HPV ワクチンには、がんになる手前の状態(前がん病変)が減り、がんそのものを予防する効果があると言われています。

日本で使用している HPV ワクチン

子宮頸がんの原因である HPV の 50~70%を占めるHPV16型と、18型を防ぐワクチンと、さらに 5 種類の HPV の感染を防ぐワクチンが作られています。

- 2価ワクチン(サーバリックス) 子宮頸がんの原因の 50~70%を防ぐ
- 4価ワクチン(ガーダシル) 子宮頸がんの原因の 50~70%を防ぐ
- 9価ワクチン(シルガード9) 子宮頸がんの原因の 80~90%を防ぐ

HPV ワクチン接種のリスク

筋肉注射という方法でワクチンを接種します。

予防接種をうけた後に注射したところの痛みや腫れ、赤みなどの症状が起ることがあります。まれにですが、重い症状(※1)が起こることがあります。また、広い範囲の痛みや手足の動かしにくさ、不随意運動(※2)といった症状が報告されています。

重篤な症状(※3)として報告された人数は、ワクチンが原因か分からぬるものも含めて、ワクチンをうけた1万人あたり 3~5 人(※4)です。

ワクチンの種類や年齢によって、合計2回または3回うけますが、接種した時に気になる症状が現れたら、それ以降の接種をやめることができます。気になる症状がでた時は、まずはお医者さんや周りの大人に相談してください。(※5)

※1 重いアレルギー症状(呼吸困難やじんましんなど)や神経系の症状(手足の力が入りにくい、頭痛、嘔吐、意識の低下)

※2 動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまうこと

※3 重篤な症状には、入院相当以上の症状などが含まれています

(報告した医師や企業の判断によるため、必ずしも重篤でないものも報告されることがあります)

※4 サーバリックスとガーダシルはそれぞれ約5人、シルガード9は約3人

※5 HPV ワクチン接種後に生じた症状の診察を行う協力医療機関を都道府県ごとに設置しています

岩手県の協力医療機関 : 【岩手医科大学附属病院 産婦人科 ☎019-613-7111】



ヒトパピローマウイルス

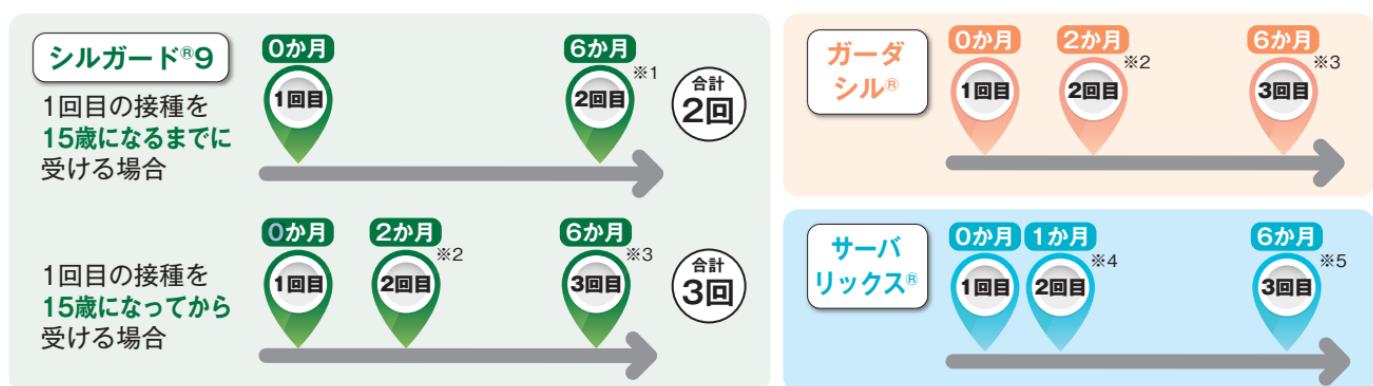
HPVワクチンの接種を希望する場合は?

小学校6年生から高校1年生相当の女の子は、HPVワクチンを**公費(無料)**でうけることができます。ただし、対象期間を過ぎると自己負担になり、接種1回あたり約3万円、計3回接種すると約10万円かかることになります。

ワクチンの種類や年齢により、接種の回数や間隔が異なりますが、いずれのワクチンも、所定の回数を完了するためには半年から1年かかります。

また、ワクチン接種には保護者の同意が必要です。

一般的な接種スケジュール



※1 1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月末満である場合、3回目の接種が必要になります。

※2・3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3)あけます。

※4・5 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の1か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※4)、3回目は1回目から5か月以上、2回目から2か月半以上(※5)あけます。

釜石市内の接種協力医療機関

釜石市でHPVワクチンの予防接種をうけられる医療機関は次のとおりです。

医療機関ごとに、予約方法が異なりますので、事前に電話で確認をお願いします。

堀耳鼻咽喉科眼科医院	平野内科医院	庄子医院
小笠原内科クリニック	小泉医院	神林医院
岩手県立釜石病院小児科外来		

HPVワクチンについて もっと詳しく知りたい

HPVワクチンについて、「まだ早いけど接種どうしよう」「副反応が心配」など、不安なこと、知りたいこと、どんなことでも構いません。市健康推進課(☎22-0179)までご連絡ください。

また、厚生労働省や市のホームページもご覧ください。

厚生労働省ホームページ



釜石市ホームページ

